

ハンドブック ワンポイント レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

ブロック国体を観戦に行きました。

ある対戦で、ベースライン付近におちたボールを、正審はインと判定していましたが、「今はアウトではないか」と質問がありました。正審はその質問に対して、インであることを手のひらを下にして片手を前方斜め下に差し出しサインで示しましたが、それに対し再度「痕跡を確認して欲しい」との要望があり、正審は副審に痕跡を確認するよう指示しました。その指示に従って、副審は痕跡を確認し、その場でアウトであることを、片手を上げてサインで正審に示しました。正審はそれを見て「コレクション・アウト」とコールしました。そしてプレーを再開するよう指示しましたが、失ポイントになる他方のプレーヤーから、「先程インだと再判定したではないか」と言われて困ってしまいゲームは中断してしまいました。私も大会でよく正審をすることがありますので、このような場合はどう対処したらよいのかご教示ください。

Answer

質問に対して大切なことは、主張をよく聞く姿勢とアンパイヤーの判断は貫かねばならないという信念を持つべきです。仮に確認した結果、アンパイヤーの判定に誤りがあった場合には、勇気を持って判定の訂正を行うこととなります。このときは、判定の変更によって不利になる方に、誠意を持ってそのことを伝えることが重要です。

今回の事例は大会中よく見かけるケースであり、残念なことに信念を持ったアンパイヤーではなかったように思われます。なぜゲームが中断したのか一緒に考えて見ましょう。

ベースライン付近におちたボールを、正審はインと判定していましたが、ところが、このインの判定に対して、「今はアウトではないか」と質問があり、正審は手のひらを下にして、片手を前方斜め下に差し出し、インであることをサインで再判定しました。

これに対し、再度「痕跡を確認して欲しい」との問い合わせがあり、正審はこれを受け入れ副審に痕跡を確認するよう指示し、副審はその指示に従い痕跡を確認して、その場でアウトであるサインをしました。正審はそれにより「コレクション・アウト」と判定をコールによって通告しています。

さて、この一連の流れから、あなたなら質問に対する対応手順に大きな過ちを起こしていることに気づくはずですよ。

まず最初に、「今はアウトではないか」と質問があったとき、審判規則第14条(再判定)には、アンパイヤーはマッチ中に判定等についてプレーヤーから質問があった場合は、内容を確認の上、再度判定の結果を正審から通告するとあります。正審は質問を拒否するかのようにインのサインで再判定を下しています。これに対して、「痕跡を確認し

て欲しい」との問い合わせがあり、これは再判定を行った後なので異議とみなして警告の対象となりイエローカードを提示しなければなりません。しかし、問い合わせを受け入れ副審に痕跡の確認を依頼しています。確認する意思があるのなら、即座に再判定をせず「タイム」とコールして、副審を呼び協議し、痕跡の確認が必要であれば副審に痕跡の確認をなぜ依頼しなかったのでしょうか。また、さらに副審も審判規則第7条(アンパイヤーの心得)第1項第3号キ(当該マッチのアンパイヤー同士の連携を密にすること。)、ク(他のアンパイヤーの判定区分については、その権限を侵さないこと。)を無視しています。副審は正審に痕跡の確認を依頼されたときは、確認した状況の資料を正審に提供すべきところを、その場でアウトのサインをして判定を下し決着しています。そのときどうして正審は副審を呼んで二人で協議できなかったのでしょうか。質問に対する対応手順が思い出せなかったのか非常に残念です。協議した結果を、正審から不利になる方に誠意を持って伝え通告したならば、失ポイントになる方から「先程インだと再判定したではないか」と言われずに、また、これからの問い合わせは警告の対象となりイエローカードの提示になりますね。

結論として、判定を下すときは信念を持って、また、イン・アウトに確信が持てない場合は、ボールの落下点の痕跡を確かめてから判定することができるので、副審に痕跡

の確認を依頼し、資料を提供してもらい、協議の結果を正審から通告することをよく理解し、適切に適用できるようになることが大切です。また、再判定後の問い合わせは異議とみなし、警告を与えなければなりません。競技規則や審判規則、質問に対する対応手順のフローチャートに精通し、自信を持ってアンパイヤーの職務が務まるように、日頃から取り組んでいただくことを願っています。



【関連規則】

ソフトテニスハンドブック

競技規則

第 40 条 異議の申立て等の禁止

第 41 条 警告

審判規則

第 7 条 アンパイヤーの心得

第 12 条 判定の確認

第 13 条 判定の連携

第 14 条 再判定 [解説 25] 1.

第 15 条 判定の誤り

第 20 条 警告

ジュニア審判マニュアル

競技規則について

14. 禁止事項

17. 警告

審判規則について

4. 判定の確認と連携

5. プレーヤーから質問があったときは? (再判定)

15. アンパイヤーの判定に異議がある場合はどうしたらよいか? (質問)